

平成 21 年度

第 2 回岡山市総合政策審議会保健・福祉部会における主要な意見

- 1 日 時 平成 21 年 10 月 14 日 (水) 13:30 ~ 15:20
- 2 場 所 岡山市役所 3 階 第 3 会議室
- 3 出席者 委員 12 名
- 4 傍聴者 報道 2 社
- 5 議 題
 - ・ 発達障害者支援体制整備について関係者から意見聴取
 - ・ その他 (養護老人ホーム松風園について)

6 主要な意見

- ・ 発達障害者支援体制整備について

< 是友氏 (岡山県自閉症協会) からの意見 >

- ・ 自閉症協会の電話相談には、診断を受けたけれど、どうしてよいかわからないとか、療育を受けさせたいが療育の場がないという相談が数多いのが現状である。
- ・ 発達障害というのは障害にわたる障害で不適切行動だけに目を奪われてしまっていて、その子どもを取り巻く環境であるとかそういう課題ということをもうちょっと分析して将来を見据えて目標を持って計画的、継続的に指導してもらいたい。
- ・ 学童保育の方の指導をされるときに、一番必要なところで必要な子どもがそういう支援を受ける場がなくなっているということをしてもらうとありがたい
- ・ 一般の先生方へのレベルの底上げをお願いしたい。
- ・ 知的に障害がない発達障害のこども達の行き場、受け皿というものを考えていただきたい。
- ・ 知的に障害のない子ども達は、障害があるという証明書がない。何か代替えになるようなものがあれば大変ありがたいと思う。

< 土岐氏 (おかやま発達障害者支援センター) からの意見 >

- ・ 保健所の要観察児の指導教室と専門療育の間の機能を持つ親子教室的な資源整備が必要ではないかと考える。
- ・ 先生方でのやはり技術の格差があり、障害の特性の理解が十分でない。
- ・ 通常学級に在籍する子どもの問題として集団適応が目的になってしまっていて本人が過剰適応していたり、それから過剰な個別対応が局在化している現状がある。

- ・切れ目のない教育支援のために引継ぎのシステムが必要で、幼稚園・保育園から小学校への引継シートが検討されていますが、小学校から中学校への引き継ぎ、高等学校への情報提供が課題である。
- ・高等学校の発達障害のある生徒の理解はまだ途についたところで、管理職を初めとして校内の理解啓発が急務である。
- ・成人期について専門相談窓口、発達障害に特化した日中活動の場とか、就労移行のプログラム開発等の資源整備が課題である。
- ・岡山県の発達障害支援の仕事をして必要だと感じたことは5つあります。

明確な相談窓口があるということ。

持ち込まれた相談の性質を判断する機能、ケースワーク機能があるということ。

発達障害支援を通常業務として取り組む部署がライフステージごとにあるかどうかということ。

発達障害支援について仕組みを考え、不足する資源整備について関係機関が話し合う場、協議会組織、機関連携組織があるということ。

人材育成を計画する部署があるということ。

以上のような体制整備というものの点検が必要かと考えております。

- ・その他（養護老人ホーム松風園について）

今後の民営化スケジュールなどの説明行った。特に意見はなかった。